

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 30 日現在

機関番号： 12401
研究種目： 基盤研究 (c)
研究期間： 2008～2011
課題番号： 20520634
研究課題名 (和文) セクシャル・マイノリティと戦後イギリス社会の変容

研究課題名 (英文) Sexual Minorities and Social Changes in Post-war Britain

研究代表者

市橋 秀夫 (ICHIHASHI HIDEO)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号： 70282415

研究分野： 近現代イギリス社会史

科研費の分科・細目： 史学・西洋史

キーワード： イギリス、戦後社会、セクシュアル・マイノリティ、多文化社会

1. 研究計画の概要

(1) 「政権党の政策と法改革の動向」、(2) 「教会および医学界の動向」、(3) 「当事者団体の動向」、(4) 「メディアおよび国民世論の動向」の4つの領域に分け、それぞれの史料収集・整理・分析を、年度ごとに進めていく。研究方法は、オーソドックスに、広範囲な一次史料の渉猟にもとづいておこなう。とりわけ、まだ十分に活用されていないロンドン・スクール・オブ・エコノミクス の文書館に所蔵されている同性愛法改革団体の関連史料を当事者団体側の中心史料として、またブリティッシュ・ライブラリーの Sound Archive やミドルセクス大学所蔵のオーラル・ヒストリー史料 (聞き書き史料) を活用する。報告と経過発表を行ない、学会報告を経て成果報告書を作成する。

2. 研究の進捗状況

(1) 文献史料収集については、かなりの成果があった。政府関連史料 (国会議事録 (上院・下院)、調査報告書など)、医学専門誌論文 (*Lancet* や *British Medical Journal* など)、教会関係パンフレット、LSE アーカイヴス所蔵文書も含めた当事者団体発行文書史料、時事雑誌論文、新聞記事などについては十分な収集を行なうことができたといえる。

(2) オーラル・ヒストリー史料の収集が当初の予想以上に時間がかかり、計画通りに進んでいない。ブリティッシュ・ライブラリーおよびミドルセクス大学の「同性愛ニュース・メディア文書館 Lesbian and Gay Newsmedia Archive」に収集されているオーラル・ヒストリー史料の収集が計画通りに進捗していない状況にある。

(3) 以上のように収集できた史料について

アンバランスが克服できていないものの、すでに収集した史料の読み込みとその分析からは次のような点が浮かび上がってきた。① 60年代末の限定的だが画期ともなった同性愛犯罪法改革ののち、70年代と80年代には当事者運動が可視化していった。それに対して政府、教会、医学界、メディアの各界は、ときに根強い偏見と差別の存続を反映しながらも、セクシャル・マイノリティを徐々に静かに受容する傾向にあった。② その過程は、女性や若者の存在感の増大、移民の増大など、イギリスの戦後社会のさまざまな領域での多元化への変化と軌を一にしている。ただし、分析の過程で、移民の増加は必ずしも性的価値観の多元化に貢献したとはいえない点も浮かび上がってきた。③ EU やヨーロッパ人権裁判所に代表されるヨーロッパとイギリスとの主権バランスの変化も、イギリスの法改革を推し進めた重要な要因であった。

3. 現在までの達成度

③ やや遅れている。

(理由) 当初の計画通り実施できている部分と、そうでない部分がある。本研究の基礎となる基本的な一次史料の収集はおおむね計画通りに進んできたが、オーラル・ヒストリー史料の収集に予想以上に時間がかかっている。文献資料に比べて、内容の確認により多くの時間がかかっている。

史料の読解と分析はおおむね計画通りに進んでいるが、成果発表が計画より遅れている。これは、分析のまとめ、総合化の準備の時間がこれまで十分に確保できていなかったことによる。明らかになってきたさまざまな論点をまとめる作業はまだ十分に進捗してはいない。

4. 今後の研究の推進方策

23年度は研究の最終年度にあたるので、進捗が遅れているオーラル・ヒストリー史料の補充収集を行いつつ、研究成果のまとめの作業を急ぐこととする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

市橋秀夫「私的自由の境界：戦間期イギリスにおける同性愛犯罪法改正論議(中)」、『埼玉大学紀要 教養学部』、46巻、1-30頁、2010年、査読無し。